寺島メソッドマラソン方式－完全個別タスク型授業の導入―

研究員　中西　毅

１　はじめに

昨年度まで、授業においては「4 人１組の協同学習的グル―プ学習」形態で授業を進めていました。「協同学習スタイル」にしてから、生徒の授業参加度は格段に上がったような気がします。「班学習」のもつ効果と意義は否定しませんし、学習内容によってはとても効果的でいいやり方だと思います。ただ、「生徒に本当に学力をつける」「高校卒業後の生徒の自律学習を支える」という意味においては、協同学習スタイルの授業は限界があることを痛感していました

転機となったのは、昨年６月に、今までは、著書を介してしかできなかった元岐阜大学教授寺島隆吉先生と直接やりとりをさせてもらったことでした。和高英研の第 2 ブロックの研修会の講師を、江利川先生に紹介していただいて、勇気を出して寺島先生にメ―ルを送らせてもらったことがきっかけで、著書を再度読み直すようになりました。そして、寺島先生のすすめで、研究仲間の準研究員にさせていただくことになりました。その中で、今までの授業スタイルでは「生徒にしっかり残る英語力」や「学校を卒業してからも自分で学べる力」をつけてあげられていないことに直面し、昨年の 2 学期から、寺島メソッドの中の「リズム読み」「書写」「暗唱テスト」「記号付けプリント」「マラソンプリント」を導入しました。それに伴い、評点方法も大幅に改革しました。以下は、そのやり方で授業を受けてくれたある生徒からの感想です。

「ほかの教科の授業は、授業中にバーって先生が説明するだけ。クラスで１－２名の勉強のできる子は先生の話を聞いて何が大事かしっかりノートをとって、授業中も覚えるし、テスト前、何を勉強するかわかってるからいい点数とれるけど、僕とか大部分の子たちは、普段の授業はボーっと聞いてるだけで何が大事かもわかれへんし、何も覚えへん。ほんで、テスト前になって何を勉強するかわからんくってあせりまくる。で、そうやって覚えたことはすぐ忘れる。先生のマラソンの授業やったら、写ししたり、暗記したり、和訳したりするから、授業の中で覚えられる。ほんで、マラソンを完走したら３０点くれるっていうシステムやからせなしゃあない。テスト前だけ勉強するんちごて、授業中もしっかり勉強できるから忘れへん。」

この生徒の感想から、私は、このやり方に自信が持てるようになりました。そこで、2017 年度からも、このやり方を進めていくことしました。

２　活動内容と成績のつけ方

ここでは、今、私が和歌山工業高校の英語の授業において、どのようなプリント、どのような授業スタイルで授業をしているのか、寺島メソッドを導入して生徒にどんな良好な変化が見られたか、私の授業スタイルの課題はどこかを考えていきたいと思います。（国際教育総合文化研究所『紀要』第 3 号に掲載いただいている拙論「工業高校の英語教育における効果的な評価方法の模索」も併せてごらんいただければ幸いです）。

以下は、今年度の 1 学期の中間テスト後に生徒に配った成績のつけ方です。

30点タスク
1. 教科書レッスン8　マラソン　8枚
2. ダストーク1回
3. 振り返り作文0.5枚
4. テーマ作文1枚
5. 実力テスト予想問題つくり
6. 歌マラソン（写5回、歌のテスト、暗記）

授業の数　11回

10点
On my own　自分で選んでする勉強
（読み物プリント、テーマ作文追加、作文英訳、ダスボーナストーク、英文エッセイ、英語以外の言語の勉強など）10点から上はボーナス点になります。

期末テスト　60点満点

各学期の授業開きにおいて、すでにテスト範囲も確定し、生徒に連絡しています。表を見てもらえばわかると思うのですが、6 つのタスクを締め切り内にこなせば、合格点である 30 点が付与されます。タスク 1 は、教科書の本文を記号付けプリントにしたもので、8 枚で完走です。記号付け以外にも構造読みプリントや、英作文のプリントも入っています。（なおプリントや私がどんなテストを作成しているかのより詳しい情報は、私が生徒向けに発信している公式 twitter（https://twitter.com/wakonatakeshi）をご覧いただければと思います）。ここでは、構造読みプリントのサンプルを示したいと思います。

教科書マラソン Lesson 3 No.7 Name (　　)

A①One of my American friends, Pakkun, translated the Japanese lines into English. ② Then I learned all the lines by heart.③ I kept on practicing.④ The performance was 30 minutes long, and it went quite well.⑤ Since then, I have been performing in various countries.	B①It is because I want to break down the barrier between the audience and me. ②If I perform in their language, they will understand that I am interested in their language and culture. ③ This is more important than speaking the language fluently.

（1）AとBの文章にタイトルをつけましょう！（できれば英語で、日本語で）

A(　　)

B(　　)

（2）Aの文章を①序論（読んでいる人に話のところまで持ってくる部分）②展開（山場までの前ふり）③山場（一番のクライマックス）④終結（最後）の4つにわけるとしたらどこでわけますか番号をかきなさい。

①序論(　　)

②展開(　　)

③山場(　　)

④結論(　　)

（3）ABそれぞれでいっこく堂さんが、一番いいたい文をひとつ選び意味を日本語でかこう！

A[文の番号(　　)　　]

B[文の番号(　　)　　]

（4）「世界中の人が日本語を覚えれば、外国語を勉強せんでもいいやん」という意見があります。あなたはこの考えに賛成ですか？反対ですか？（ 賛成　　反対 ）

そのことに関して、あなたの意見を書いてください。

寺島メソッドといえば、「記号付けプリント」と「リズム読み」だと思っていましたが、この「構造読み」も絶対落とせない「武器」だということが最近ひしひしとわかってきました。これからも、生徒に文章の構造を常に意識させる展開やプリントを考えていきたいと思います。

タスク２のダストークとは、ＦＬＴのダス先生のところにいき、テーマ（このときは、自分の好きなものか自分の将来についてのどちらか）をもとに話をすればいいというタスクです。スマートフォン、友達、もちこみＯＫです。

タスク３の振り返り作文は、今タームの授業の振り返りの日本語での作文、ダスク４

のテ―マ作文は、自分で決めた書きたいテ―マをもとに書く日本語の作文タスクです。

タスク５の実力テスト予想問題つくりについて説明します。本校では、就職の校内選考の大きな資料として６月に実力テストが国社数理英の５科目で行われます。英語に関しては、出題される長文はあらかじめ示されています。このタスクは、その長文から自分で予想問題を７問作るというタスクです（下をご覧ください）。

実力テスト長文の予想問題を20問作ろう！

英語の長文ででそうな質問
★It, theyなど代名詞が何を指すか？
★前置詞を選ばせる問題
★本文の内容とあった文章を選ぶ問題
★本文に関する質問に対する答えを書かせる問題。
★和訳させる問題
★正しい形に書き直させる問題。
★並び替え
★その意味に当たる英語を探させる問題。
★本文の内容とあうように空欄に語を入れる問題。

Your name (　　)

文番号		答え
(例)４	It は何をさすか？	Ireland
(例)１ 前置詞	Think (　) the color emerald green.	of
(例)10 動詞の形	Green (also, use　) as the symbol of Ireland for other events.	is also used
(例)６ 並替え	Ireland (green, with, is , covered) all the year round.	is covered with green
(例)15	彼はたまたま(　　)に亡くなった	彼の最後の連載がサンデー誌にのる1日前
(例)７ ○か×		

タスク６の歌は、今回は John Lennon の Imagine でした。ノルマは歌詞の書写５回、歌のテスト（正しいリズムで歌えるかのテスト）合格と暗唱の合格です。歌と暗記のテストは歌詞すべてではなく、サビのところだけを必修にしました。

そして、期末テストははじめから 60 点満点。必修タスク達成点が 30 点ですので、その間に on my own というコーナーを設けました。そのメニューは以下の通りです。

On my own MENU

1. シャーロックホームズ読み取り（1枚で1点）
2. ライオンキング読み取り（2枚で1点）
3. ダストーク延長戦（1回増えるごとに1点）
4. テーマ作文追加（ひとつ増えるごとに1点）
5. テーマ作文英訳（2点）
6. 振り返り作文英訳（2点）
7. 英文エッセイ（30語以上、1作品につき1点）
8. I am the teacher.（中西の代わりに生徒のプリントをチェック　1時間につき2ポイント）
9. 英語ではない言語の学習（1枚につき1点）
10. 歌のテスト延長戦（1箇所につき1点）
11. 歌の暗記テスト延長戦（1箇所につき1点）
12. 自分の好きな歌のさび暗記テスト（1曲につき1点）
13. その他（こんな勉強がしたいという要望があれば相談にのります）

いちおう10点　10点ラインをこえたら後はボーナスステージです

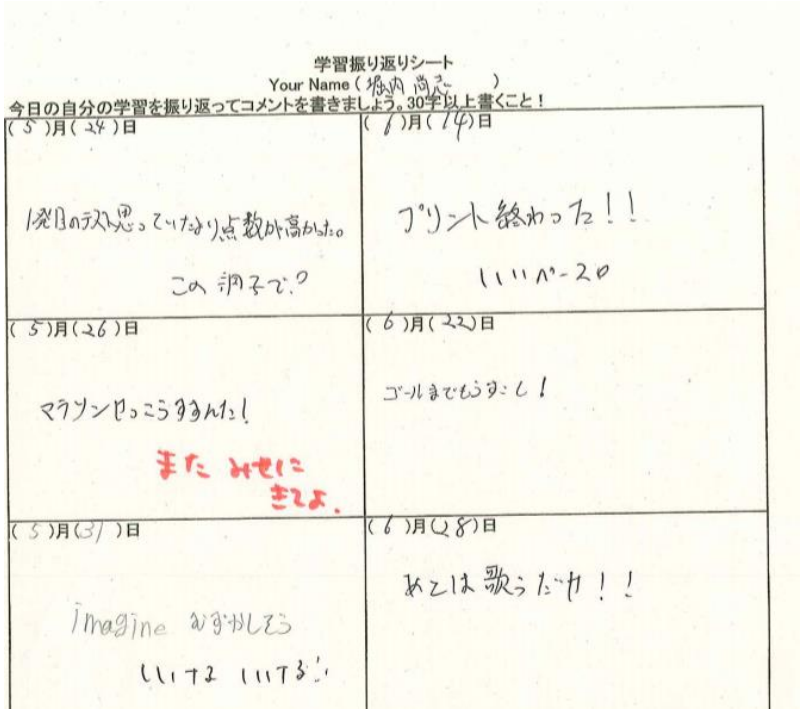
今の授業スタイルの「みそ」は、早く終わった生徒を飽きさせず、学習から逃げさせない工夫です。そして、ゆくゆくは、人に言われたり、成績や進路に関係なく、しかも教材も与えられなくても自分で学習できる市民に育ってほしいというのが私の願いです。ですので、必修タスクを終わったいろいろな生徒が取り組みやすいよう、幅広くメニューを用意しました。一番生徒がとっつきやすかったのは、シャーロックホームズとライオンキングの記号つけプリントでした。何枚もどさっと持って帰って家でやってきた生徒もたくさんいました。なかなか、私の方で記号づけプリント作成が追い付かなくて大変でした。ライオンキングは 40 枚でゴール、シャーロックの方は 80 枚でゴールですが、私自身、プリントづくりがまだ完成していません。もっと短いボーナス読み物も用意しなくては。あとは、最近のＫｐｏｐブームのせいで、韓国語の歌をフルコーラス暗記できる生徒もいて、この生徒もボーナスポイントを大量にゲットしていきました。私が一番助かったのは、8 のＩ am the teacher タスクです。私の代わりに生徒のプリントや暗記をチェックする係なのですが、これをしてくれる生徒のおかげで、私は、フリーになり、slow learners に声をかけにいき支援ができとても助かりました。

この On my own タスクは、10 点を超えたらあとは青天井にボーナスポイントが入ります。ですので、早い人は、テストを受ける前に必修タスクと合わせて 70 点くらいゲットしている人もいました。少し、ボーナスの安売りになってしまったかもしれませんが、それはそれですごいことだと思います。「先頭と最後尾をつかめ」が、寺島メソッドの格言の中にありますが、本当にその通りです。必修タスクという「最低ライン」をできない生徒は何度でも呼び出し、合格するまで責任をもって付き合うこと、そして、fast learners 達には、「自分で学ぶことを見つけられる」真の自律学習者への道へ誘うこと、とにかく一人一人をよく見て、タスクや支援を適切に与えられる、そんな引き出しも多

く、洞察力も深い教員を目指したいです。

2―2　普段の授業の進め方

さて、普段の授業の様子ですが、授業は、HR 教室ではなく、基本的に、選択教室や会議室などの移動教室で行いました。席は、ブロック型に組んで、こちらで決めたグループごとに、座っていきます。そして、各グループの山にクリアファイルをおいて、そこにチームのメンバー表と、一人一人が授業後毎回記入する振り返りシートを入れておきます。以下は振り返りシートの一例です。なるべく、毎回、生徒のコメントに対する返しを書くようにしています。これは、生徒とのつながりつくりにとても役立っています。



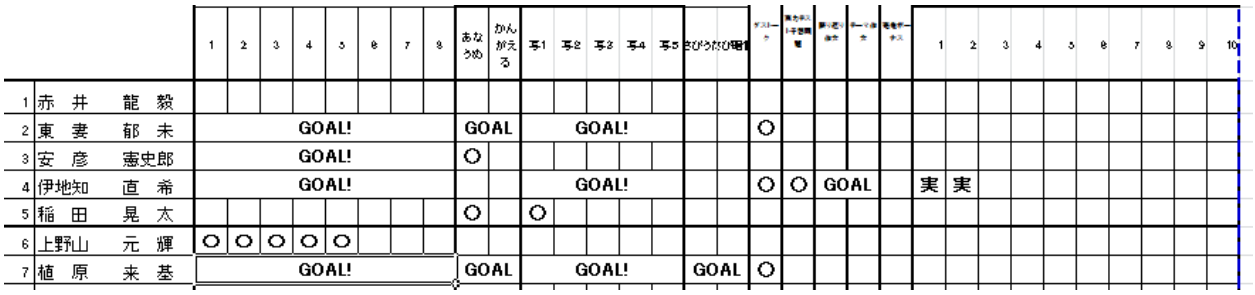
学習振り返りシート

Your Name（堀内 尚之　）

今日の自分の学習を振り返ってコメントを書きましょう。30字以上書くこと！

(5)月(24)日 1学期のテスト思っていたより点数が高かった。 この調子で。	(6)月(14)日 プリント終わった！！ いいペース
(5)月(26)日 マラソンやっこうするんだ！ また みせに きてよ。	(6)月(22)日 ゴールまでもうすこし！
(5)月(31)日 imagine おぼえてる いいね いいね！	(6)月(28)日 あとは歌うだけ！！

さらに、各ブロックに、一人一人がいま、どこまで進んでいるかのクラス名簿を置いておきます。これを見て、生徒たちは、今日すべきことを選んで学習を進めていきます。これもかなり効果的です。



		1	2	3	4	5	6	7	8	あなうめ	かんがえる	写1	写2	写3	写4	写5	さびうたひ		ポスター	黒板ポスター	新聞	ポーズ	発表ポスター	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	赤井　龍毅																																
2	東妻　郁未	GOAL!								GOAL		GOAL!							○														
3	安彦　憲史郎	GOAL!								○																							
4	伊地知　直希	GOAL!										GOAL!							○	○	GOAL			実	実								
5	稲田　晃太									○		○																					
6	上野山　元輝	○	○	○	○	○																											
7	植原　来基	GOAL!								GOAL		GOAL!					GOAL		○														

わかりにくいですね。解説を加えます。はじめの 1―8 の番号は、教科書の記号付け和訳プリントです。次の穴埋めとは、imagine の歌詞の穴埋めプリントです。「かんがえる」

は imagine の形象よみプリントのこと、次の「写」とは、imagine の歌詞の書写です。「さびうた」とは、imagine の歌詞のサビの歌（またはリズム読み）テスト、「さび暗記」とは、サビの暗記、そして、ダストーク、実力テスト予想問題作りタスク、振り返り作文、自由テーマ作文と続きます。そして最後の 1－10 は on my own コーナーです。「実」と書いてあるのは、実力テスト予想問題作りタスクを余分にやったボーナスという意味です。

上の写真が授業の様子です。クラス全体で一斉に何かをする場面は、授業内でほとんどありませんでした。（この是非については、後述します）。疲れている生徒は、休む、進む生徒はどんどん進む、わからないところは私やクラスメートに聞く、完全な個別学習スタイルです。中には、「授業中はざわざわして勉強しにくいから、僕はプリントは家でする」と宣言して、授業中は休憩している生徒もいました。それもありかなと思います。いいようにいえば、いま流行の「反転授業」と言えるかもしれません。一人でできることは、家庭学習で、一人ではできないこと（プリントをチェックしてもらう、歌の暗記テスト、わからないところを質問する）を学校の授業でやるというのは、ある意味授業として理想の形なのかもしれません。

一番この授業スタイルがうまくいっている、機械科 3 年乙組では、普通、授業で初めと終わりに行われる「起立。礼」の儀式が必要なくなりました。生徒たちは授業開始 5 分前くらいから三々五々移動教室に集まってきます。自分のグループの山で、自分のタスクの進み具合を確認して、前に並べてある必要なプリントをとっていき学習をはじめます。さらに、家に持って帰っていたプリントのチェックをしてもらいに私のところに来る生徒もいます。ベルが鳴る前から学習がそれぞれで始まるので、あえて「起立、礼」

の儀式をして、授業が始まった宣言をしなくても学習の開始に支障がない、逆に「起立、礼」をやることで、生徒の学習をとめてしまうことになってしまうのです。そして、終わりについても、生徒たちは時計を見ながら、それぞれ自分の切りのいいところで学習をおえ、振り返りシートを記入し自分のクラスへ帰っていきます。キリが悪いので、ベルが鳴り終わった後も教室に残って、終わらせる生徒もいます。ですので、終わりの「起立、礼」もいりません。もちろん、全員ベルが鳴る前から学習を始めているわけではないのですが、この生徒たちの様子を見ていると、「学習が、やらされるものでなく自分のものになっているのだな」と感動しました。「何をすればいいかがわかっていて、動機があれば生徒はどこまでも学び続ける」ということを実感できています。

もう一枚、別の写真をお見せします。

上の写真が「ダストーク」の様子です。密室ではなく、このようなオープンなスペースで行われます。他の生徒に助けてもらうのも、ダス先生が、スマホで同時通訳アプリを使うのもありにしています。「外国の人と何とかやりとりをしよう」という体験をしてもらいたい、「分かり合えた！」という喜びを感じてほしい、そして、何より、ダス先生と仲良くなることで、英語学習の動機づけになってほしいというのが私の願いです。ノルマは1回ですが、2回目以降はすべてボーナスポイントとして、成績に加味されます。トークが面白くて、しかも成績にも入るということで、5回も6回もトークにチャレンジする生徒も結構見受けられました。

プリントは、一枚合格すれば次を渡すというのを基本にしていましたが、今は、あいた机や床にすべてのプリントを並べておいて、希望する人は、何枚かまとめてもっていくことも可にしています。持って帰って家でやる生徒や、まとめて提出する生徒もいますが、可としています。

今の私のやり方は寺島メソッドの本流ではないと思います。かなりアレンジをした亜

流なので、寺島先生からはいろいろな面で、注意されそうです。ですが、厚かましくも、このスタイルを「寺島メソッドマラソン方式」と勝手に名付けたいと思います。次節では、このスタイルにして、生徒に起こった良好な変化をまとめていきたいと思います。

12―2―3　寺島メソッドマラソン方式にしてから見られた生徒の良好な変化

さて、私がこのような、「寺島メソッドマラソン方式」に授業スタイルを転換してから、よくなった点を①生徒と教員の 1 対 1 関係が深まる②達成感③一歩踏み出す力の 3 点にしぼってまとめていきたいと思います。

まずは、1 点目。この方式にして、生徒と私との距離が格段に縮まりました。プリントをチェックしにくることで、私は少なくとも 1 日 1 回は生徒と目を合わせて話をする機会ができます。しかも、私が生徒にかける言葉は、「しっかり勉強しろ」とか「こんなこともわからないのか」といったネガティブな言葉ではなく、「がんばったな！」「あと 2 枚で終わりやど」「歌、上手やなあ」などというねぎらいや励ましなどポジティブな声掛けになります。また、振り返りシートや、テーマ作文に生徒がいろいろなことを書いてくれているので、その情報を利用して、「最近クラブどうな？」「あのアニメ、おもしろいでなあ、僕も見てるよ」などという会話もできます。そうなると生徒との良好な信頼関係が築けます。いい授業の基本は、生徒との良好な信頼関係つくりであることは言うまでもないことでしょう。

さらに、一人一人が直接プリントを出しに来ることで、生徒の間違いの傾向と、学びに向かう姿勢（集中力、計画力、持続力）のどこに課題があるかが手に取るようにわかります。例えば、今回の教科書マラソンのなかにこのような文がでてきました。

Vending machines (make) our life easier.

生徒の中で一番多かった間違いは「自動販売機をつくると、私たちの生活は楽になる」でした。センマルセンがまだ完全には頭に入っておらず、〇の前が主語であるということよりも、make（作る）という動詞の意味に引っ張られて無生物主語を目的語に訳してしまう生徒が多かったです。その中で、「make=作る」、つまり英語と日本語の単語の意味は 1 対 1 対応すると思い込んでいる生徒が多いということに気づきました。記号付けプリントに書いてある英単語の日本語の意味は、あくまで、「原義」であることを生徒に伝える必要性を痛感しました。さらに、our life と easier　が、主語述語の関係にあることももう一つ、乗り越えるべき山です。今回は、英訳プリントを用意して、このパターンの習得を図りました。たしかに、I want you to be quiet とか His big voice kept me from falling asleep とか、日本人には主語＋述語+主語＋述語が 2 組続くというパターン、片言みたいでなかなかなれません。だから、I want to you study みたいに、to を変な位置におく生徒が多いです。とくに、このパターンは 1 個目の主語に人じゃなくてモノがくる場合が多いので生徒は苦労していました。しかし、一人一人が同じようなところでつまずいて、同じような説明を何人にもしているうちに、私の説明もレベルアップしてくるのが個別スタイル授業の面白いところです。そういう「説明達人」になったころに、英語がとても苦手な生徒がきて、わからないところを説明したら、よくわかったみたいで、ものす

ごく納得した顔をしていました。そして、授業の最後にかいてもらう振り返り用紙に、彼は「英語わかった！」とものすごく強い筆跡でコメントを残してくれていました。個別スタイルならではのエピソードでした。

さらに、このスタイルで行くと、一人一人の生徒の「学びに向かう姿勢における課題」も手に取るようにわかります。本当に生徒は様々です。ずっと 1 対 1 でついていないとできない生徒、すこし発破やヒントをかけるとやり始められる生徒、ほっておいても自分でできる生徒。それぞれの生徒が、「集中力、計画力、持続力」のどこに課題があるか、どのように支援していけばいいかをじっくり観察することができます。もちろん、すべての生徒が、授業内ですべての必修タスクを突破できるわけはありません。今回も、終われない生徒は、締め切り前に何回も呼び出し、最終日には会議室を借り切って、各クラスからの「精鋭」を全員集合させて、タスクが終わるまで帰さない「エンドレス補習」をしました。ひとつ言えることは、この時点まで残る生徒の課題は、英語力という「見える学力」が不足している生徒ではなく、「計画力、集中力、持続力」や「ひとに聞ける力」といった「見えない学力」が不足している生徒がほとんどです。そして、どんな生徒でも、授業中にできなくても、1 対 1 になったり、追い込みがあれば、できます。生徒たちとどんどんやり取りをし、一人一人の学びを観察しながら、最終的には全員が呼び出されたり、人に言われたりしなくても、自律的にタスクや学習にとりくめる「学習ストラテジー」を身に着けてくれたらと思っています。

2 点目、このスタイルは、達成感を感じられる瞬間が多いことです。プリントのチェック、歌の暗記テストやＦＬＴの先生とのトーク、とにかく、生徒が乗り越えるべきことが具体的に目の前にあり、それを一つずつ乗り越えることで、「おつかれさま」とか「がんばったね」などというねぎらいの言葉をもらえ、毎回配られるクラス名簿の自分の欄にどんどん〇が記載され、自分のやったこと一つ一つが成績という形で評価されます。その中でも、歌の暗記テストのチェックは本当に楽しい作業です。「できるかな？」と不安そうに歌い始めて、成し遂げた瞬間の生徒の顔は本当にみていてうれしいです。「わかった」とか「できた」とかいう顔やコメントをしてくれると本当に「ああこの仕事やっててよかったな」って思います。人にほめてもらったり、ちょっとした何かをやりとげたり、そんな小さな達成感の積み重ねが、人を前にすすめるんだということがわかります。必修タスクの 30 点を終わった後も、学びをやめることなく続けている生徒の動機は、ボーナス点をもらいたいという気持ちだけではなく、達成感を味わいたいからだと思います。必修タスクを終えた生徒たちが、必修でない部分の歌の暗記をしようと、教室の片隅においてあるＣＤラジカセの周りを取り囲んで、音楽を聴きながら練習のため合唱している姿は、見ていて本当に楽しくなります。

3 点目、この方式にして、生徒の「一歩踏み出す力」が伸びたような気がします。というか、私自身がこの「一歩踏み出す力」の大切さに気付いたといったほうが正しいでしょうか。とにかく、この方式は、自分から何かを始めないと何もすすめません。その意味では、一斉講義型授業のほうが楽です。生徒は聞いているだけでいいのですから。生徒の授業に対する不満で一番多い意見は「この授業はめんどくさい」です。「コミュ障の僕にはきつい授業」という感想を書いてくれた生徒もいました。たしかに、この方式にして、「賢くなるための一番の近道は、わからないとき人に聞ける力」だということ

が実感できました。寺島先生がよく書かれているように、真の低学力の生徒は、クラスメートのプリントさえ写せずに、固まってしまう生徒です。どのクラスにもそのような生徒がいます。その中でも、特に私が気になっていたのは、1年生から3年間ずっと担当している3年生のＮくんです。彼は1年生を2回やった留年生です。もう3年目になるのですが、いまだに年下のクラスメートには心を開いていません。ＦＬＴの先生が心配して、「そんな面白なさそうな顔してないで、もっと学校生活を楽しまないか？留年なんてたいしたことじゃないよ。」と励ましの英文の手紙を直筆で書いたくらいです。そういう意味では、彼にとって私の授業は苦痛でしかなかったでしょう。とくにこの方式にする前の、協同学習的グループ学習スタイルのときは、クラスに気軽に話す友人がいない彼には、授業は、「業」のようなものだったでしょう。授業中なにもせずにずっと固まっていました。しかし、今の方式にしてから、少しずつ、彼も、前に出られるようになりました。授業中は何もできなかったのですが、テスト前になると私のところに来て「補習をしてほしい」と自分からいえるようになりました。クラスの授業のなかでは、プリントを仕上げて、私のところにきて、プリントをチェックしてもらうことも、他のクラスメートの目が気になるようで、できなかったようです。テスト前の補習で、彼と私の間でつながりが少しずつできていく中で、授業中の学習にも少しずつ取り組めるようになってきました。まだまだ、彼の「ひとに聞ける力」は不十分ですが、最終的には、私にではなく、クラスメートに質問したり協力を頼んだりできるように進めていけるかなとうれしく思っています。逆に、「集中力、持続力、計画力」がなくてマラソンを完走できないけれど、「ひとに頼る力」でなんとか乗り切っている生徒もいます。友人にプリントを借りたり、教えてもらうように助けを求めたり、しめきりが過ぎても、あきらめず私に交渉にきたり、そういう力も大事でしょう。もちろん、彼らには最終的には、自律学習者になる条件である3つの見えない学力はつけてあげないといけませんが。

「一歩踏み出す力」に関して、もう一人の生徒のエピソードをここで紹介させてください。その生徒は、3年生のＹさん。彼女は生徒会役員をつとめるなど、普段から積極的です。マラソンプリントも積極的にどんどん進めるのですが、なぜかＦＬＴの先生とのトークが苦手でした。トークのときに聞かれる質問リストの質問と答え方をばっちり調べ、どの質問がきてもばっちりの状態になっても、なかなか、ダス先生のところに行けませんでした。「次の授業、次の授業」と何回か飛ばしたあと、やっと気持ちを決めてガチガチの状態でダス先生の所に行きました。トークを終えて帰ってきた彼女の顔は一生忘れられません。本当にやり切った、何かを乗り超えた顔でした。彼女が勇気を出して踏み出した一歩、本当にうれしかったです。ほかにも、必修タスクを突破して、ボーナスステージに突入した生徒が、成績に関係なく様々なタスクに取り掛かろうと踏み出す一歩も、本当に見ていてうれしくなります。

以上、このスタイルにしてよくなった点を3点に絞って考察してきました。「おれは英語が苦手」「どうせおれは頭が悪いから」という、高校に入ってくるまでの英語に対する劣等感を払しょくするため、スモールステップをたくさん用意し、それを突破していくことで達成感と自信をもたせ、さらに前に一歩踏み出す力を養う。少し難しそうな課題でも、自分と考え方や言語が違う相手にも一歩踏み出して、新しいステージに向かう勇気。それは、主権者教育、すなわち、自分の意見をもちそれをどんな相手にも表明

できる市民の育成になっているのかもしれません。まだまだ道半ばですが、大きな目標に向かって、生徒とともに私も成長できたらと思います。

ただし、もちろん、このスタイルには課題もあります。何より、この「マラソンスタイル」も「ガラス張りの評点方式」も、いつかはやめるための補助輪に過ぎないからです。次節では、その観点から、現時点での課題をまとめていきたいと思います。

2―3 現時点での課題

1学期ずっと、個別活動中心の授業スタイルでやってきて、もちろんよかったところはたくさんありました。しかし、大きな課題として二つあります。一つ目は、「個と集団の有意義なやりとり」が少なすぎたところ、もう一つは、「生徒にまだまだ英語そのものの力をつけてあげられていないこと」です。

2－3－1　学習における個と集団の効果的な関係

この問題をもう少し具体的に言うと、「構造読みや形象読みの際に、自分とは違う考え方にふれあう機会が少なかった」「全体でリズム読みを練習する場面を作れなかった」「slow learners たちへの支援や他生徒からのまなざしをもっと誘発すべきだった。やらない生徒に対して、あいつはあんなやつやからという“放置”が見られた」「意欲的自主的に走る生徒に対するスポットを教科通信など形でもっと全体であてることで、他の生徒から“ああなりたい”というモデルにするやり方をすべきだった」などです。今、夏休み後の 2 学期の授業をどうするか思案中ですが、「学習集団をどう作っていくか、そのためにどんな仕掛けをしていくか」という観点が必要だなと痛感しています。

2―3－2　定期テストの結果から見える授業の弱点

「先生のテスト難しすぎて、やる気なくす」という訴えをもらいました。この生徒は、英語がとても苦手なのですが、わからないときは、「先生わからん、教えて」と必死に聞きに来てくれる生徒です。普段の様子から、テストの点数も格段にアップするであろうと思っていましたが、彼の定期テストの点数は、60 点満点で一桁でした。この生徒だけではなく、このスタイルにしてから授業の生徒の学習の取り組みが格段に向上しているし、一人一人とのやり取りの中でわかってくれた瞬間も多かったので、こちらも少し欲が出てやや難しい問題を作ってしまっているのかもしれません。「先生のテスト多すぎて、時間足りやん！」という意見もよく聞きます。たしかに、タスクさえ達成できれば 30 点は与えるので、私の中では定期テストは「力試し」のつもりで難しめに作っています。しかし、それでも成績の 6 割は定期テストで決まるし、生徒にとってテストというのは特別な意味があるのです。せっかく授業スタイルを変えて、生徒が参加しやすくしていても、定期テストで低い点数をとってしまうと、やる気がなくなるというのはしごく当たり前のことです。

少し考えたのですが、今の私の授業スタイルでいくと、定期テストは必要なしで、タスク点や暗唱テストなどだけで成績をつけるのが一番いいのだろうと思います。さらに、高校の成績の合格点 30 点というのはあまりに低すぎます。合格点から満点までの間が空きすぎです。ただし、それにしても、「これくらいならできるだろう」と思って作った

テストで、生徒があまりいい点数をとれないのは、テストが難しすぎるだけではなくて、授業で生徒に力をつけきれていない証明であると受け止めないといけません。ここで、私が作成した 1 学期の中間テストを紹介したいと思います。なお、ここに示すテストは、問題ではなく、「解答例」のプリントであること、ご注意ください。

２０１７年度　和歌山工業高等学校　３年　コミュニケーション英語Ⅱ　　１学期中間テスト

（　　）科３年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　表の人になりきって、英文に対する答えを英語で答えなさい。なお、日本語で答えた場合、点数は半分になります。(10点)

岩鬼正美（いわきまさみ）　メイクン高校野球部(baseball team)に所属。１５年間野球をやっている。チームのキャプテン（captain)をつとめている。入った理由は、山田にかちたいから(win) 練習は１日５時間(five hours). で、毎日ある。練習(practice) がきつい(hard)ので、やめたいと思っている。

1	I' m in the baseball club.
2	Because I want to win Yamada.
3	Yes, I do.
4	I practice baseball for hours every day.
5	I have been playing baseball for 15 years.

2. 以下はqueenのwe will rock youの歌詞です。歌詞を読んで以下の質問に答えなさい。[15点]

Buddy, you' re a (1 少年 :　boy　　) make a big (2 騒音 :　noise　　)
Playing in the (3 街 :　street　　) gonna be a big man some day.
You got (4 泥 :　mud　　) on your　(5 顔 :　face)　You big disgrace. Kicking your can all over the place.　Singing, we will we will rock you.

Buddy, you' re young man hard man, shouting in the　(3 街 :　　)gonna take on the world some day. You got (6 血　blood　　)on your (5 顔 :　　)　You big disgrace. Waving your banner all over the place.　Singing, we will we will rock you.

Buddy, you' re an old man, poor man Pleading with your eyes gonna make you some peace some day
You got (4 泥 :　　) on your face　You big disgrace. (A: put, back, better, somebody, you) into your place.　Singing, we will we will rock you.

問1　以下の意味にあたる英単語を歌詞から抜き出しなさい。〔2点〕
かわいそうな、あわれな（　poor　　）　不名誉（　disgrace　　）

問2　空欄に入る英単語をかきなさい。(6点)

問3　以下の歌詞で強く読む部分の○を黒く塗りつぶしなさい。(4点)
また、発音をカタカナでかきなさい。。

● ○ ○ ● ○ ● ○ ○ ●

Kicking your can all over the place.

読み方（ ｷｷｮｶﾝｵｰﾊﾞｻﾞﾌﾟﾚｲｽ)

問4　この歌詞中の　we will rock you の　we, you はそれぞれ誰を指していると思うか。あなたの解釈でいいので、日本語でかきなさい。(2点)

we→	you　→

問5　この歌で韻を踏んでいる（後ろの発音が同じ）単語のペアを一組みつけて、書き出しなさい。〔1点〕

place-disgrace

3. 授業でとりくんだ教科書を和訳するプリントをするなかで、あなたが気づいた日本語と英語の単語の並べ方のちがいをかきましょう。２０語越えるごとに１点、最高４点です。

4　外国に住んでいる英語しかわからないおば(Mary さん)に、自分のクラブ活動（またはアルバイト，または学校生活）について手紙をかくことになりました。１５語以上の単語を使って、英文でかきなさい。（クラブもアルバイトもしていない人は、趣味のことや、学校生活のこと、中学時代のクラブ活動などのことを書いてもかまいません）

［６点］

	A （２点）	B ［１点］	C ［0.５点］
分量	３０語以上	２０語以上	１５語以上
文法・つづり字の正しさ	間違いがほぼない	少しある	間違いが多い
受け取る相手への気遣い	相手にわかりやすいようしっかりと配慮できている	相手にわかりやすく伝えようという配慮がすこしある。	相手に対する意識がほとんどない。

5 英文を読んで以下の問いに答えなさい。(20点)

One day one of my American friends said, "Okinawa is so cool." I said, "What do (a)you mean? Okinawa is hot." She explained, "Cool originally meant 'not warm', but now it also means 'Great'. I also noticed the same kind of change in Japanese. To me, yabai means 'great', but to my parents, it means 'not safe'. When I told (b)this to my teacher, (c)she said, "Language always changes. (d)It is seen in every language. "

問1　下線部(a)(b)(c)がさしているものを英語でかきなさい。日本語だと点数は半分になります。(6点)

(a) one of my American friends
(b) To me, yabai means 'great', but to my parents, it means 'not safe'
(c) my teacher

問2上の英文を参考に、以下の日本語の表す意味を英語でかきなさい。(2点)

「Hot はもともとは寒くないという意味でしたが、今は sexy だという意味もあります。」

Hot originally meant 'not cold' but now it also means 'sexy'.

問3　以下の文で動詞を見つけ○をしなさい。また、前置詞のまとまりを2箇所みつけ〔　〕でくくりなさい。そして、日本語にしなさい。(6点)

I also (noticed) the same kind [of change] [in Japanese]

意味私は日本語で同じような種類の変化に気づいた

問4下線部 (d) It is seen in every language. とほぼ同じ意味を表す英文を以下から選び○をしなさい。(2点)

(1)As you can see, words are used in new ways.

(2)New words are created every day.

(3)These changes are common to all languages in the world.

(4) Here are some examples.

問5　以下の言葉の変化を説明している英文を以下からえらび、記号で答えなさい。(4点)

(あ) 小学生並みの感想を「小並」という　　(　　2　　)

(い) ヤフーということばからヤフるという言葉ができた。(　　1　　)

(1) Some verbs come from nouns.

(2) People often use shortened words.

(3) The meaning of the words sometimes changes.

(4) Some verbs are changed into nouns.

6　以下の二つの文の違いの説明となるように空欄に正しい語句をかきなさい。（5点）

(A) Taro has two brothers who are doctors.

(B) Taro has two brothers, who are doctors.

この２つの文の違いは、who（このwhoを文法用語で（　関係代名詞　）とよぶ）の前に（　コンマ　）があるかないかだけである。意味はどちらも（太郎には医者をしている兄弟が二人いる　）という意味だが、微妙に違いがある。それは

（　B　）の文は、太郎には兄弟が２人いて、二人とも医者をしているという意味であり、whoから後ろの文は、two brothersに説明を付け足しているだけだが、（　A　）の文は、太郎には兄弟が２人以上いるかもしれなくて、そのうち、医者をしている兄弟が二人いるという意味になるという意味上の違いがある。

7 英文を読んで以下の問いに答えなさい（１０点）

1 My friend Yoko (likes) snakes. 2 She (keeps) one [as a pet]. 3 (Guess) her friends ' reaction. "4 I (don' t like) snakes. 5 They (are) terrible. 6 Yoko, (are) you crazy?" 7 Perhaps their reaction (is) normal. 8But (wait). 9They never (see) real snakes. 10 They (don' t even touch) them. 11 They only (see) them [in the book] or [on television]. 12 What (is) the problem? 13 They only (react) [to the word: snake]. 14 They (don' t like) the word: snake.

1 my 彼の friend 友達 like(s) 好きだ snake(s)へび 2 keep(s) かっている one ひとつ as ～として pet ペット 3 guess 想像してみて her 彼女の friends友達たちの reaction 反応 4 don't=do not do ～する not～ない 5 they それら are ある terrible ひどい 6 crazy 頭がおかしい 7 perhaps たぶん their 彼らの is ある normal 普通 8 but でも wait 待って 9 never 決して～ない see 目にする real 本物の 10 even～さえ touch 触れる them それら 11 only～だけ in～の中に book 本 or または on～の上に television テレビ 12 what 何? problem 問題 13 react 反応する to ～に向かって word 単語

問１　11 の文の穴埋め訳を完成させなさい。また、立ち止まり訳（わかりやすい日本語になおす）もしなさい。（4点）

かれら ただ（　1　見る　）それら［～の中で　2　本　］または［～の上で　テレビ］.

立ち止まり訳

彼らはただ本やテレビでだけそれらを見る

問２　英文から前置詞を２つ見つけ出しなさい。（２点）

on, to, of など	

問３　12 What is the problem?とは何が問題なのか、日本語で説明しなさい。

ヘビを触ったり実物をみたこともないのに、ヘビということばやイメージだけで、ヘビはこわいと決め付けてしまうこと。

問４　13, 14 が表す内容について、同じような例を日本語であげなさい。

食わず嫌い、ゴキブリと聞いただけで反応してしまう、蛇ということばをきいただけで、よく考えずに反対してしまう

1番は、ダストークで扱った話題からのリスニングテスト、2番は授業で取り上げた歌の歌詞からの問題、3番はメタ言語能力を問う問題、4番は自由英作文、5番は授業で学習した教科書の本文からの問題、6番は、記号付けをした生徒にとって初見の長文の読解問題です。寺島先生のアドバイスに従い、「重箱の隅をつつくような枝葉を問う問題」（具体的には単語の書き取りや和訳、前置詞の選択などを問う問題）は極力避け、「構造読み」やメタ言語能力を問う記述式の問題を多くしているつもりです。日ごろの生徒の積極的な学びから「1番や2番や5番は余裕でできるかな？」と思って出題したのですが、実は、発展的な内容を問う4番や6番の問題よりも、授業でやったはずの1番2番5番のほうが、生徒の出来は悪かったのです。考えてみれば、生徒にとっては「ダス先生と1回だけしか話してない」「プリントを1回やっただけ」「写しを5回やっただけ」になってしまっていて、しかも、テスト前に家庭学習をする生徒もあまりいなかったので、授業でやった内容は、ほとんど定着していなかったのでした。それを生徒は「難しいテスト」だと感じていたのでしょう。とくに Fast learners たちは、必修タスクを早々に終わらせてしまい、その後振り返ることがないので、定期テストの頃には、教科書や歌詞の内容が頭から飛んでしまっているのです。学期の最後に、「構造読み」「テストの予想問題作り」「ダス先生と話した内容を文章化して提出するタスク」など、もう一度振り返る仕掛けを作らないといけないと思います。

他に分析できることは、5番の問3のような、「前置詞を抜き出せ」や「動詞を抜き出せ」という設問は、昨年からずっと出題しているのですが、生徒たちは少しずつできるようになってきました。文の構造をつかむ上でこの二つ（それと接続詞）を見極めることは大切だと思っているので、生徒の理解が深まっているようで、うれしいです。もう一つ、6番の初見の英文に関しては、語順訳はできても、立ち止まり訳に苦労している生徒がまだまだ多いです。もっともっと多読が必要だと思われます。

私が個人的に一番注目しているのは、3番の「メタ言語能力」を問う問題です。定期テストごとに毎回出題しています。英語と日本語の語順や発音の違いなどを生徒たちがどう「自分のことば」で appropriate しているか。記述の内容にかかわらず、語数さえ突破していれば点数はあげています。いくつか生徒の記述例を分析したいと思います。

質問「あなたが気づいた英語と日本語の言葉の並べ方の違いは？」

回答例１「日本語は一番大事な語を後にもってくる」
２「英語は、私は、する、野球を　という風に動詞を真ん中にもってくる」
３「日本語は主語動詞だけど英語は動詞主語」
４「英語は訳をするのが後ろからになる」
５「英語だと語順はめちゃくちゃだ」
６「英語は誰がどうした何をの順番だ」

この回答から一番メタ言語能力を身につけているといえるのは２や６の生徒でしょう。英語はセンマルセンということに気づけています。しかし、５のように、他言語の構造を日本語基準でしか考えられず、英語には英語の語順のルールがあることに気づい

ていない生徒も多いです。１や４の回答は、英語にもルールがあることに気づき始めているが、具体的なルールをまだ発見できていない段階です。３の生徒は主語とはなにか、名詞とはなにかがわかっていないと思われます。（すべての生徒の定期テストはすべてPDFにして保存しています、どの生徒がどんな段階にいるのか、もっと分析しないと！）まだまだ、生徒の「メタ言語能力」は不十分、もっともっと「記号付けプリント」や「リズム読み」の練習が不可欠です。少し話はそれますが、いずれ、生徒たちがこのスタイルの中でどう「メタ言語能力」を向上させていくかを、振り返り作文やテストの回答から追ってみたいです。生徒が何かを習得するには、どんなプロセスをたどるかを生徒の言葉から追うアプローチ、いつかまとめたいです。

それはともかく、生徒に英語の力がついていない理由をここで少し考えます。今は、リズムは歌で、語順は教科書マラソンで定着をはかろうとして、教材を二本セットで行おうとしています。そうなると生徒がひとつひとつの教材と対峙する時間がどうしても薄くなります。テキストの確実な定着には、一つのテキストだけを使って、「書写」「リズム読み」「記号付けプリント」「構造読み」すべてを行い、音声、語彙、構造をスパイラルに何回も繰り返すことが効果的だと思います。そして、そのためには、寺島メソッドの 3 基本教材(the big turnip, the house that Jack built, the whole)の導入が一番近道だと思います。踏み切れないのは、英語の授業が週 2 時間しかない中で、苦しい家計の中購入した教科書をあまりつかわないことへの躊躇です。さらに、今私が担当しているのは 2 年生と 3 年生だけということも、どの教材をどう導入するかを難しくしています。1 年生であれば授業が 3 単位あるので、導入しやすかったのですが・・・。生徒の様子や生徒のニーズ、英語力の定着をもう少し省察しながら、どんな教材をどう使っていくかを考えたいと思っています。

ひとつ大きな論点が残っています。それは、評点をつける際、テストの点数と平常点の割合をどうすればいいのか、さらに「必修タスクすべてを突破したら 30 点できないと 0 点」というシステムが本当にいいのか、寺島先生のように、作文は何点、歌のテストは何点というふうに小分けにした方がいいのかについてです。実際、そのことに関しては、あるクラスで生徒との間にちょっとした論争があり、面白い考察ができそうなのですが、今回は問題提起のみにとめておきます。

2－3－3　生徒の声

ここまでの課題については、すべて、生徒たちが毎回の授業で書く振り返りシートや、学期の終わりに提出する「授業振り返り作文（原稿用紙半分以上が最低ライン）」にすべて目をとおした上での私の感触をもとに考察してきました。しかし、それでは、具体的な生徒の学びが見えにくいと思います。ここで、生徒たちの生の声（＝「授業振り返り作文」）をいくつか紹介したいと思います。その方が、この授業の到達点と課題が明らかになるかと思いますので。ただ私が担当している 8 クラス約 320 人すべての作文をここに載せることは不可能ですので、代表として、私が 3 年間担当し続けている化学技術科 3 年（男子 37 名、女子 3 名）にスポットをあてて、彼らが 1 学期の期末テスト前に出してくれた「振り返り作文」のいくつかを紹介したいと思います。

「いつも通り、マラソンはめんどくさかったけど、自分の力でやるのは本当に大切だということがわかった。教えてもらったり自分でわからないところは聞くということが大事だということがわかった。テスト以外で 30 点くれるので、頑張ってマラソンを終わらせなければならないので、赤点回避するために頑張りました。」（K くん）

「英語の授業はとても自分でやる意欲が出てくるのでとてもやりやすいです。テストで点が全くとれない僕からすると授業中にするプリントとかだけで赤点回避できるのでひっしこいてプリントをするのでどの授業よりも一番やる気があります。」（S くん）

「1 学期の英語の授業を受けて僕は英語のプリントを一人で仕上げれるようになったと思う。最初は何人かで教えあったりしてやってたけど、いざ一人でやってみたら思ってたよりできたし、わからないところを聞いたりしてテストの点数が前より上がったと思う。僕は中学の時は英語が苦手だったけど、今は前よりは苦手意識がなくなったような気がします。今回の期末でよい点をとれるよう頑張ります（K くん）

「英語の授業は、しないといけないことが最初にわかり、早く終わらせればその分ゆっくりできるというのがいいです。私はマラソンや写しのプリントは簡単にすることができますが、歌の暗記が苦手なのをなんとかできればいいなと思っています。私は英語が得意ではないですが、このような授業は楽しいので授業はいやではないです。気の合う人たちとグループを組むことができればという条件もありますが。その点も考えてくれているのでいい授業だと思います」（U くん）

「今日までの授業を振り返って思ったことは、プリントは自由にできるけどやらないといけない枚数が多いので大変でした。1 年生や 2 年生の時は海外の歌を使っていたのに 3 年生になってからはあまりやらなくなったので悲しいです。また歌を使って授業をしてほしいです。授業で使ったプリントの話で面白かったのはジョンレノンの話でした。ジョンレノンは日本人の人と結婚していたのは知らなかったのでびっくりしました。」（O くん）

「僕は、この授業を振り返ってみて英文をよみとる力が上がったと思います。今までの僕ならすこし読み取れるレベルでしたが、この授業をうけているうちに少しずつですが、読み取れる力がついてきました。この授業では特に自分自身の力で読み取るように努力してきました。まだまだ読み取る力は少ないですが、これからも少しずつ読み取る力をつけていきたいと思います。そのためにも、自分自身の力でどんどん問題を解くように心がけていきたいです」（T くん）

「今回のプリントは 8 枚くらいで自動販売機は必要かどうかとブックカバーは必要かだった。僕は自動販売機もブックカバーも必要だと思う。自動販売機はスーパーマーケットよりも値段は高いけれど、けっこういろいろな場所にあるので便利だから必要だと思う。ブックカバーは本の表紙が汚れないようにするのに必要だと思う。歌はイマジン

だった。暗記するのが苦手なので頑張りたいと思う。授業はだいたプリントでやるので普通に黒板の板書をうつすより自分でやるのでいいと思う。プリントの枚数もちゃんと授業中に終わるくらいの枚数で、ちょうどいいし、歌の暗記も長すぎないのでいいと思う。期末テストは中間テストよりいい点がとれるように頑張りたい」（N くん）

「今まで 2 年と少しこの和歌山工業高校で英語を教えてもらって思ったことは、中学校の時よりだいぶん英語が好きになったことです。中学の時は単語もわからなくあきらめてたけど高校では単語の意味も書いてくれてやる気も出ました。何より教え方が好きでした。テストで出てくる歌の歌詞も誰もが一回くらい聞いたことのある曲なのでよかったです。単語も覚えることができてきたら、英語の文章を日本語に直すこともできるようになりました。」（K くん）

「もっとはやくプリントを終わらしたらよかった。次ははやくおわれるようにしたいです。教科書マラソンは教えてもらったりしたので早く終わることができましたけれど、写しがしんどくてすぐに終わらすことができませんでした」（T くん）

「今回、英語の授業の歌はジョンレノンのイマジンでした。この歌が放送禁止になったことを初めてしりました。アメリカであった 9.11 のテロと関連があることさえ初めて知りました。この歌にはとても深い意味があるんだなと思いました。しれてよかったです。ツイッターでプリントや内容、連絡をするのはとてもいいと思います。いつでも確認できるのでいいです。これからも続けてほしいと思います。今回からテストが 60 点満点になるのもいいと思います。やらない人はしりませんが、授業が楽しく行える。意欲、関心が高まると自分は思います。最近英語の授業が楽しいです。これからもどんどんよくしていってほしいです。就職前の最後のテストを頑張りたいと思っています。」（M くん）

「授業の今回のプリントはなるべく早く終わりました。自販機についてでした。さすがにボーナスのプリントはしたくないです。ボーナスポイントでハングルをやりました。ハングルを覚えるのが一番楽しかったです。ハングルのボーナスプリントならめちゃめちゃやる気が出ます（笑）。英語は並び方が違うのでややこしいです。坂之上さんが先生の代わりをやったとき、プリントを見てもらったのですがとても適当で最低でした。」（M さん）

「中学校の時は、英語の時間が苦痛でした。「次、英語の時間や・・・」というイメージしかなく、教科書を永遠とするだけのものだと思っていました。しかし、高校生になって、中西先生と出会い、教科書だけではなく、英語の歌や自分のペースで進めるプリントなど、自分のペースで楽しく勉強することを学びました。卒業しても忘れないと思います。学校の授業で一番楽しかったです。私たちはいつも教室に閉じ込められているのですが、先生のおかげで外に出ることができるようになり自由をもらえました。」（N さん）

このクラスの生徒は、3 年間のつきあいの中で、私が「打たれ弱い」ことを知っているので、優しいコメントが多いし、基本的に生徒が教師や授業を正面切って批判することはないことはもちろん前提としてありますが、ほとんどの生徒が、この授業スタイルを前向きにとらえてくれているといっても言い過ぎではないでしょう。生徒たちがこの授業スタイルを支持する理由は大きく３つあります。まずは、生徒たち、特に低学力の生徒たちから何より好評なのは、「テストではなく提出物だけで赤点を回避できる点」で間違いないでしょう。以前の「工業高校における効果的な評価方法の模索」でも書いたとおり、「一回限りの定期テスト＋教員が主観的につける平常点」では、生徒は、何を頑張ればいいかが、わからないのです。ニンジンで馬をつっているみたいなこそくなやり方といわれるかもしれませんが、確かに、生徒は、「ひっしこいて」勉強します。二つ目は、記号付け和訳プリントに単語の意味が書いてあることも生徒のやる気を高めているようです。このクラス以外の生徒も多くがその点を指摘していました。（ただ、まだまだ多くの生徒は「英語は単語を覚えればわかるようになる」「わかるとは覚えることだ」と思っているようです。そうではないのですが・・・・）。3 点目は、「自分のペースでできる」点です。別のクラスの感想に「この授業は効率的だ」という意見がありました。教える側からすると、一人一人とやりとりをしないといけない、今のスタイルは「非効率的」きわまりないのですが、生徒からしたら、「しんどいときは休める」「やる気のあるときはどんどん進む」「早く終わってもボーナスステージがある」「わからないところだけ先生やクラスメートに質問できる」というのは、「効率的」なのです。これに気づかせくれた生徒に「ありがとう」といいたいです。

もう一つ生徒の感想からわかることで重要な点を付け加えたいと思います。それは、生徒は「単語の意味が書いてあるからラッキー」「人のプリントを写せばいいや」とか「ダス先生とのトークは、同時通訳アプリでこなせばいい」などとは***決して思っていない***ことです。「単語のヒントを見ないでとけるようになりたい」「今回は、友達のをうつしてしまったけど、次は自分でやりたい」「ダス先生とヒントなしで話せるようになりたい」「必修タスクはとっとと終わらして次こそはボーナスステージにいきたい」。このクラスだけでなく、そんな前向きな感想がどんどん出てきます。よく考えれば、生徒たちは、自分の力と相談しながらそれぞれのタスクの難易度を自分で調整しているのです。記号付けプリントをやるときも、単語のヒントをあえて見ないようにしている生徒をよく見かけます。だれもが、いつかは「すらすらと英語を話したり、すらすらと英文の意味をよみとれるようになりたい」というねがいをもちながら、テキストと対峙しています。ただ一人一人の生徒の英語力や意欲が違うので、サボったりずるをしたりしているように映ってしまう場合もありますが、「どの生徒も成長したがっている」ということから目を背けて生徒と対面しては絶対だめだとういことを再度痛感させられました。生徒をよく観察し、動機付けを高め、自信を回復する声かけや支援をこれからも追求していきたいと思います。

今回は、1 クラスだけ分析しましたが、本当は授業にいっている 8 クラスすべてについて、ここにあげたように一人一人の生徒の思いを分析すべきなのですが、時間の関係で夏休み中には無理なようです。2 学期が始まってからできる範囲でやっていきたいと思います。

「振り返り作文」などからわかる、生徒の授業に対する批判的な意見は以下のようなものです。「タスクが多すぎて大変」「テストが難しい」「移動教室が大変」「教科書（だけ）を使って授業をしてほしい」「勉強は結果がすべてだから、テストの点数を重視してほしい」「私が好きな歌じゃない」。もちろん、すべて生徒の意見を聞き入れることがいいことではないと思います。おかしい意見には毅然と反論し、私が信念をもって行っていることは「おしつけ」なければいけない場面も出てくるでしょう。（たとえば、移動教室は、私の授業には非常に有効です。配布プリントの多さ、生徒の学び方の把握、生徒が、移動することで英語学習に対して気持ちをきりかえられるなど利点がたくさんあります）。生徒たちの疑問や不満から逃げず、しかも、一人一人の意見を大事にし、お互いにとっていい関係を保ちながら、授業スタイルや評価方法をよりよい方向に進めていけたらと思っています、

それにしても、やはり生徒たちは優しいです。

「1 年生から授業を受けて英語の楽しさがすごくわかって、先生の熱い授業が楽しいです。先生が中学校の先生だったらいまごろ、たぶん、英語が好きで好きでたまらないと思います。中学で英語の授業がはまっていれば、得意科目になっていたと思います。1 年生の時はまったくわからなかったけど、2 年生になって少しずつ楽しくなってきました。あとすこし頑張りたいと思います。」（Y くん）

Y 君はラグビーでのスポーツ推薦で入学してきた生徒です。中学時代、英語の先生との折り合いが悪く、英語をほとんど勉強しなかったそうです。今でも定期テストの点数は、かなり低いですが、高校になってから、気持ちを入れ替えて意欲的にとりくんでくれて「英語が少しわかるようになった」といってくれていて、本当にうれしいです。

このクラスも、このクラス以外にも、すべての授業ですべての瞬間に生徒たちが意欲的に学びに入れているわけではありません。トランプに興じたり、私語をしたり、スマホで遊んだり、寝てしまったりして、1 時間まるまる、ほぼ何も学べない生徒もいます。もちろん、しめきりが近くなると、生徒のピッチもあがるし、最後には全員呼び出して、エンドレス補習をして全員やらせるので、焦ることはないのですが、途中の授業では、どうしても遊ぶだけの生徒たちが目について、悲しくなります。時には、キレてどなることもありました。「本当にこのやり方でいいのだろうか？」と悩むこともありました。もし、私以外の英語教員が彼らの担当だったら、もっと彼らは成長できたかもと自虐的になることもしばしばあります。でも、彼らは決してそんなことはいわず、私の授業方針や授業に対する思いを、彼らなりにまっすぐに受け止めてくれています。彼らなりのペース、彼らなりの意欲で、タスクをこなしています。誰もが、「成長したい」とねがいながら。

「先生のおかげで自由になれた」といってくれる生徒がいます。あと 5 ヶ月の限られた期間で、あの子たちの人生を少しでも豊かにするお手伝いができるような授業作りをしたいと思います。

2－3－4　「すべての指導はやめるためにある」

今、一番の悩みは「最終的にどのような形で生徒手を離すのがいいか」です。記号付けプリントもマラソン方式もガラス張りの評点方式もすべて「最後にはやめるための補助輪」にすぎません。その「効果的な外し方」をどう見通すかということです。実は、今年の 1 学期の期末テスト後の授業で、「チ―ムを作って、和歌山工業高校のいいところを英文で説明する英文ビデオを作りなさい」というプロジェクトを生徒たちに課しました。1 学期のこれまでの学びから、どのチ―ムも、熱心に自発的に計画的に取り組んでもらえるという見通しでやってみたのですが、残念ながら、生徒たちの動きは今一つでした。どういう計画をたて、だれがどんな役割をして、ビデオ完成にたどり着くかの「絵」が描けない、また、リ―ダ―シップを取れる生徒がいない、さらに学校紹介をするというプロジェクト自体に面白みを感じていない生徒が多くみられました。すこしあせりすぎたなと、反省しています。さらに、何回も「夏休み中に各自が取り組めるボーナス読み物を用意してあるから、やってみようと思う人は申し出てね」と訴えましたが、課題をもらいに来たのは 8 クラス中、たった一人でした。（こんなボーナスあるよ、やりたいひとは、やっといてね！といって全員に配布しておくべきでした。残念！）まだまだ道半ばです。個人的には最終的な授業スタイルは、「プロジェクト学習」だと思っています。教員が教材などを用意するのではなく、生徒一人一人が自分の学びたいテ―マやプロジェクトをもち、それぞれの日々の学習をもちよってクラスメ―トや教員と意見交換をするのが授業の場という形態です。いわば論文完成にむけた大学の「ゼミ」スタイルの授業です。高校でそんな授業ができるかどうかわかりませんが・・・。

「自ら学び続ける自律学習者」になるには、見えない力である「集中力、持続力、計画力」、さらには「英文法の幹であるセンマルセン、英音法の幹であるリズム読み、読み取りの幹である構造読み」をしっかり身に着けること、そして、「学ぶことを楽しいと思える力」「疑問を作り出す力」「自分の学びの成果を発信する書く力」「自己評価力＝メタ認知能力」などがいりますが、いきなりはそのような力は身につきません。どうやってどんな手順でどんな見通しでひとつひとつの「補助輪」を外していくのか。まだまだ、手探りです。

3　2 学期の授業の展望

これまでの授業の進め方を、寺島先生に説明し、 アドバイスを仰ぎました。「テストが難しい。これでは生徒のやる気は下がってしまう。成績が正規分布するようなテストは、おかしい。生徒が授業でしっかり身につけたことを、何より、その学期で生徒につけてもらいたい力の見通しが見えない。その学期、全員につけてほしい力は何なのか。見えない学力であれば、集中力までなのか、みえる学力であれば、センマルセンの語順なのか、英語のリズムの体得なのか。それを明確に、それを重点的に問うテスト作り、授業作りをしないと！」というお話でした。

2 学期、2 年生に関しては「The big turnip」を使った書写→リズム読み→暗記テスト→和訳プリントのマラソンをやり始めました。また、3 年生に関しては、映画「レミゼラブル」を使って、民衆の歌の書写→歌のテスト→暗記テストと、ああ無情のあらすじがかかれたアメリカの安易な英文でかかれたテキストで作った記号付け和訳プリントを使って授業を進めています。

今回の「全員につけてほしい力」は、2 年生も 3 年生も、①英語のリズムの体得②センマルセンの語順の体得の２つを設定することにしました。ただ、見えない学力の方の見通しはなかなか立てられていません。「生徒に集中力がついた」というのは具体的にはどういう状況なのかがまだ、経験不足で見えてこないです。もうすこし、生徒の様子をしっかり観察し、今までやらなかった生徒が急にやり出すのはどんなときかの変化のデータをもっともっと集めたいと思います。いずれにせよ、今のやり方では、生徒に何か良好な変化が起こったとき、適切な支援や声かけを行えるかどうかが鍵だと思います。どんなに授業中遊んでいる生徒でも、「このままではいけない」と不安になる瞬間があって、そのとき「ちらっ」とこちらを見に来ます。そのときが勝負だと思います。その瞬間を見逃さずしっかり観察や声かけをしていきたいです。

現在使用しているプリントをいくつか例としてあげておきます。

カブ8　　Name (　　)

The big turnipを振り返って

問1　この物語のMVP，あなたなら誰を選びますか。理由も書こう。

問2　なぜおばあさんは、son(息子)やdaughter(娘)でなくgranddaughterを呼んできたのでしょうか？あなたが思う理由を書こう。

問3　この物語のクライマックスはどこか。文の番号とその理由を書こう

問4　この物語を序論、展開、山場、終結の4つにわけるとしたらどうなりますか？また、それぞれの場面にタイトルをつけてみよう！

	文番号	タイトル
序論		
展開		
山場		
終結		

問5　「カブをぬくこと」が「世界から戦争をなくす」ことで「6人必要」だとしたら以下のものからどれを選びどんな順番に並べますか？理由も書こう。足りない登場人物がいれば足してもいい。

国連、アメリカ政府、日本政府、ロシア政府、北朝鮮、沖縄の米軍基地、大金持ち、武器商人、民衆、自分、教育。

問6　あなたにはいま「ぬきたいカブ」はあり
どんな順番にはいってもらいますか？
れてください。

上が「カブマラソン」の形象読み・構造読みプリントです。

ミゼラブルマラソン３

Name (　　)

1 He (leaves) his house [at night],
2 and (goes) down the village street.
3 He (puts) his hand through the window [of the bakery]
4-crash-
5 he (takes) a loaf [of bread], 6 and he (runs).
7 He (runs) fast, 8 but other people (run) faster.
9 France (is) not kind [to poor people],
10 France (sends) Jean Valjean [to prison] [for five years]
11 [After four years] he (escapes).
12 They (find) him 13 and (bring) him back.

語順訳をしなさい

1彼 (　　) _____ [～で_____]
2 そして (　　) 下に _____
3 彼 (　　) _____, [～を抜けて_____] [～の_____]
4 -_____-,
5 彼 (　　) _____ [～の_____]6 そして彼 (　　)
7 彼 (　　) _____ 8 しかし _____ (走る) _____
9 フランス (ある)ない _____
10 フランス(　　) ジャンバルジャン[→_____] [～の間_____]
11 [～のあと_____]_____(　　)
12 彼ら (　　) 彼 13 そして(　　)彼 もどして.

立ち止まり訳をしなさい。

1
2
3
4
5　　6
7　　8
9
10
11
12

発展

問１　12 の they は誰を指すか？

問２ France is not kind to poor people とあるが、それを具体的にあらわす文章を本文から抜き出そう！

1 he 〔代名詞〕彼
leave(s)〔動詞〕現在形　去る
his〔代名詞〕彼の
house〔名詞〕家
at〔前置詞〕～で
night〔名詞〕夜
2 and〔等位接続詞〕そして
go(es)〔動詞〕行く
down〔副詞〕下に
village〔名詞〕村
street〔名詞〕道
3put(s)〔動詞〕置く
hand〔名詞〕手
through〔前置詞〕～を通り抜けて
window〔名詞〕まど
of〔前置詞〕～の
bakery〔名詞〕パン屋
4crash〔名詞〕ガシャという音
5take(s)〔動詞〕取る
loaf〔名詞〕一切れ
bread〔名詞〕パン
6run(s)〔動詞〕走る　逃げる
fast〔副詞〕速く
8but〔等位接続詞〕しかし
other〔代名詞〕別
people〔名詞〕人々
fast(er)〔副詞〕比較級　よりはやく
9France〔名詞〕フランス
is〔動詞〕be 現在形ある
not〔副詞〕～でない
kind〔形容詞〕親切な
to〔前置詞〕→
poor〔形容詞〕貧しい
10send(s)〔動詞〕送る
prison〔名詞〕留置場
for〔前置詞〕～に向かって～の間
five〔名詞〕5
year(s)〔名詞〕年
11after〔前置詞〕～の後で
four〔名詞〕4
escape(s)〔動詞〕逃げる
12they〔代名詞〕それら、彼ら
find〔動詞〕見つける
him〔代名詞〕彼
13and〔等位接続詞〕そして
bring〔動詞〕持ってくる
back〔副詞〕戻って

これが「ミゼラブルマラソン」の記号付け和訳プリントです。このやり方で、生徒に本当の生きる力をつけてあげられるかはまだまだ本当に道半ばですが、「困ったときは生徒に聞く」「わからない、できない生徒からスタートする」授業実践からそれずに進んでいきたいと思っています。

4 おわりに

私が授業研究を頑張るのは、「生徒を学びの力で幸せにしたい」というのはあくまで二次的ないいわけで、ただ、授業中に生徒が学びに集中する姿、何かを成し遂げて喜んでいる姿、そして笑顔が見たい、生徒たちの良好な変化が私のお蔭でなしとげられたという自己満足を得たいという極めてわがままな気持ちです。自分のことだけではなく、関わる人にも幸福を与えられるようなそんな人格者になりたいと思いつつもなかなかそういう人間にはなれません。生徒にとって成長とは何かの答えは、「私がどんな人間になりたいか」と同じ答えであるはずだと思います。「疑問を作り出す力」「真実を見極めようとする旺盛な知的好奇心」「うのみにせずに、自分の頭で考えること」「一人で生きるのではなく、他とともに生きているということの意識」。答えのない課題ですが、英語の授業という限られた時間の中で、生徒とともに、追求する、そんな教師、そんな授業つくりを目指していきたいと思います。